

KEM News Letter 19号

2026年度 第24回関東歯内療法学会大会が行われました

KEM第24回学会大会が開催されました

日時：2026年1月25日（日）9:30~16:00

場所：東京科学大学湯島キャンパスD棟4階
歯学部特別講堂

テーマ：内部吸収・外部吸収～基礎から臨床での対応まで

大会長：八幡 祥生教授（東京科学大学）

実行委員長：牧 圭一郎（東京科学大学）

参加人数：151名

講師：村野 浩気先生（神奈川歯科大学）

野間 俊宏先生（福岡県開業）

橋本 貞充先生（東京歯科大学教授）

一般講演：渥美 克幸、山内 真人、長谷川 智哉、安川 拓也、石崎 秀隆（講演順）

受賞講演：大森 智史先生（東京科学大学）

ビアパーティー 16:45~18:30

場所：御茶ノ水トライエッジカンファレンス

協賛企業：デンツプライシロナ株式会社、株式会社ペントロン、医歯薬出版株式会社、株式会社クラーク、株式会社デンタルダイヤモンド社、株式会社ヒョーロン・パブリシャーズ、株式会社モリタ、株式会社茂久田商会、東京歯科産業株式会社、有限会社錦部製作所、マニー株式会社



東京都開業 三橋 純先生

関東歯内療法学会第24回学会大会が、東京科学大学湯島キャンパスにて八幡大会長のもと開催された。テーマ講演では内部吸収・外部吸収が取り上げられた。これらは歯内療法に携わる多くの臨床家および研究者を悩ませる重要課題であり注目度も高く、会場は満席となった。本企画は、この難解なテーマを基礎から臨床まで体系的に整理し、診断と治療の思考を再構築することを目的として構成された。

橋本先生は歯周組織の防御機構および修復機序について、歯の発生過程にまで遡りながら病理

学的視点から解説された。これを受けて臨床家である村野先生が、歯根吸収のAbbott分類を臨床例とともに紹介し、外傷の既往やその程度の正確な把握が診断および治療方針の決定に不可欠であることを示した。さらに橋本先生が病理学的観点からコメントを加えることで、歯根吸収の理解はより多面的かつ立体的なものとなった。

展示会場で新製品や注目機材を見学する休憩を挟んだ後、野間先生は歯頸部外部吸収に焦点を当てて講演された。2018年にPatelらが提示したESE分類およびMavridouらのデシジョンツ

リーをもとに、PoE触知の可否や自発痛の有無といった臨床所見から治療介入の適否を判断する思考過程が示された。特に、適切な介入を行ったにもかかわらず処置後10か月で破折に至った症例を通じて、この疾患の予測困難性と治療の難しさが強調された。その後、橋本先生による病理学的解説が再び加わり、総合討論をもって講演は締めくくられた。基礎研究者と臨床家の双方の視点を往還しながら歯根吸収を検討する構成は、この疾患の診断と対処の難しさを改めて浮き彫りにすると同時に、理解を深める極めて意義深い企画であった。

午後の一般口演では、歯内一歯周病変への対応、外傷歯の診断と経過管理、新しい根管洗浄法の応用、侵襲性外部吸収への治療戦略など、多様な症例報告が発表された。各演題は複雑な病態に対する診断プロセスと治療判断の実際を示すものであり、活発な討議を通じて臨床的理解がさらに深められた。参加者投票の結果、渥美克幸先生に大会長賞が贈られた。

また、昨年度大会長賞受賞者である大森智史先生による受賞講演も行われ、外科的歯内治療の有効性が改めて示された。

本大会は、基礎研究と臨床実践を往還する構成のもと、最新知見と実践的経験が融合することで、参加者にとって自身の診療を再評価し、より精度の高い診断と治療戦略を構築する契機となった。歯内療法の発展に向けた学術的対話の場として、非常に密度の高い意義ある大会であった。

アンケートより抜粋（回収99枚）

Q今回のサマーセミナーに参加されていたか？（満足90.9%、普通9.1%）

・橋本先生の熱い講演が素晴らしかったです。

- ・全体的に近年で一番レベルが高かった。
- ・歯牙吸収、またさまざまなトピックに対して勉強することができました。
- ・臨床と基礎の融合
- ・初めて学術大会に参加した。難しい内容のイメージだったが、自分でも分かりやすいところがあったので、とても勉強になった。
- ・基礎と臨床をリンクさせた講演スタイルがよかった。
- ・シンポジウムの内容も構成も素晴らしかったです。口演も勉強になりました。
- ・病理的所見と臨床症例がコラボした講演は有意義な時間を過ごせた。

Q今回の講演内容は、今後の診療に役立ちますか？（満足92.9%、普通7.1%）

- ・ESEのステートメントとその活用の仕方を理解できたから
- ・橋本先生の話が基本に立ち返らせてくれた
- ・普段、このような症例にはほとんど出会いませんが、見落としている可能性があると感じました。
- ・使用材料や器具など、特別用意するものではなく、日々使用しているもので対応できることがわかりました。

2026年度サマーセミナーのご案内

サマーセミナー

日時：2026年9月3日（木）17:00-19:30

場所：日本歯科大学生命歯学部 8階

富士見ホール

テーマ：変色歯への対応～漂白から修復まで～

大会長：興地 隆史教授（日本歯科大学生命歯学部）

実行委員長：三枝 慶祐（日本歯科大学）

講師：須藤 享先生（仙台市開業）

天川 由美子先生（東京都開業）

定員：200名

協賛企業：トロフィー・ラジオロジー・ジャパン株式会社